

(様式第 10)

2 医大病第 6 1 8 号
令和 2 年 1 0 月 1 9 日

厚生労働大臣

殿

公立大学法人福島県立医科大学
理事長 竹之下 誠一

福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
氏 名	公立大学法人福島県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地	電話(024)547-1821
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 ②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等 ①循環器内科 ②血液内科 ③消化器内科 ④リウマチ内科 ⑤神経内科 ⑥呼吸器内科 ⑦漢方内科 ⑧腫瘍内科 ⑨小児腫瘍内科 ⑩甲状腺・内分泌内科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名 ①消化器外科 ②呼吸器外科 ③乳腺外科 ④小児外科 ⑤心臓血管外科 ⑥形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名 ①歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

病理診断科 リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
49床	2床	14床	一床	713床	778床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	431人	204人	534.6人	看護補助者	94人	診療エックス線技師	0人

歯科医師	4人	8人	8.9人	理学療法士	15人	臨床検査技師	82人
薬剤師	52人	2人	53.3人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	11人	その他	0人
助産師	35人	0人	35人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	790人	23人	804.1人	臨床工学士	17人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	0人	1人	0.3人	栄養士	0人	その他の技術員	18人
歯科衛生士	2人	1人	2.3人	歯科技工士	0人	事務職員	146人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	53人	その他の職員	46人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	44人	眼科専門医	11人
外科専門医	58人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	32人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	22人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	9人
		合計	250人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (鈴木 弘行) 任命年月日 平成31年4月1日

【学内】

- 平成24年5月～平成26年4月、平成28年4月～
医療事故防止対策委員会(R2.1医療安全管理委員会に名称変更) 委員
- 平成28年4月～
医療クオリティ審議委員会 委員
- 平成30年度 医事紛争対策専門委員会 委員

【学外】

- 平成28年～平成30年3月
日本呼吸器外科学会 地域個別調査部会員
- 平成30年2月1日～6月30日
他施設医療事故調査委員会 委員
- 平成30年9月17日～18日
平成30年度第1回特定機能病院管理者研修 受講
- 令和2年1月7日
令和元年度第3回特定機能病院管理者研修 受講

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	622.0人	5.8人	627.8人
1日当たり平均外来患者数	1497.5人	34.0人	1531.5人
1日当たり平均調剤数			918.3剤
必要医師数			149人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			21人
必要(准)看護師数			360人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	282.9 m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	12床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積: 271.2m ² [移動式の場合] 台数: 4台		病床数	24床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 42.3 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	938.1m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
細菌検査室	86.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理検査室	25.7m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理解剖室	121.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
研究室	114.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	522.7m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	459人
図書室	1,954m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	22万2,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.1 %	逆紹介率	72.9 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		11,515人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,357人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,427人
	D: 初診の患者の数		14,204人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 武寿	福島医師会	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
田中 明	国立大学法人 福島大学		医療を受ける者、その他の医療従事者以外の者	無	2
渡辺 慎太郎	弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	病院ホームページにて公表している。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重症低血糖発作を合併するインスリン依存症糖尿病に対する脳死および心停止ドナーからの膵頭移植	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る)	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ、再発が疑われるものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	140
2	筋萎縮性側索硬化症	36	57	特発性拡張型心筋症	160
3	脊髄性筋萎縮症	13	58	肥大型心筋症	117
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	5	60	再生不良性貧血	107
6	パーキンソン病	309	61	自己免疫性溶血性貧血	54
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	17
8	ハンテントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	227
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	12
10	シャルコー・マリー・トゥース病	6	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	142	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	1
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	93	68	黄色靱帯骨化症	110
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	34	69	後縦靱帯骨化症	188
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	2
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	63	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	23
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	47	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	2
24	亜急性硬化性全脳炎	3	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	49
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	2
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病	23
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	265
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	84
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	94
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	2
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	91	89	リンパ脈管筋腫症	5
35	天疱瘡	119	90	網膜色素変性症	14
36	表皮水疱症	7	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	17	92	特発性門脈圧亢進症	12
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	157
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	19
40	高安動脈炎	20	95	自己免疫性肝炎	133
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	133
42	結節性多発動脈炎	46	97	潰瘍性大腸炎	279
43	顕微鏡的多発血管炎	79	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	53	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	22	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	20	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	13	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	451	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	200	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	79	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	69	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	637	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	35	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	7	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	2	161	家族性良性慢性天疱瘡	2
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	88
113	筋ジストロフィー	37	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	3
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	8
117	脊髄空洞症	43	167	マルファン症候群	33
118	脊髄髄膜瘤	31	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	2	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	3	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	2	184	アントレー・ビクスラー症候群	1
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	10
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	7
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	5	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	7	195	ヌーナン症候群	5
146	大田原症候群	2	196	ヤング・シン普森症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	68	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	1	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	8	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	2
158	結節性硬化症	22	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	19
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	32

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	4	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	21	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	95	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	44	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	17
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	88	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	8	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	25
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	37
224	紫斑病性腎炎	7	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	14
227	オスラー病	5	275	タナトフォリック骨異形成症	1
228	閉塞性細気管支炎	12	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	21	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
230	肺胞低換気症候群	8	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・レノネー・ウエーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	331	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	29
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	10
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	12
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	33
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	6
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	4	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	300	IgG4関連疾患	72
253	先天性葉酸吸収不全	1	301	黄斑ジストロフィー	51
254	ポルフィリン症	2	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	2
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	36

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	2	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	2
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科) 令和2年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟・結核病棟;7対1、精神病棟;10対1)	・ハイリスク妊娠管理加算
・臨床研修病院入院診療加算	・ハイリスク分娩管理加算
・救急医療管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算1、2
・診療録管理体制加算2	・提出データ評価加算
・医師事務作業補助体制加算1	・入退院支援加算1
・急性期看護補助体制加算25対1(5割以上)	・入院時支援加算
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・夜間看護体制加算	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算12対1配置加算1	・精神科急性期医師配置加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料3、4
・無菌治療室管理加算1、2	・特定集中治療室管理料1、3
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料1、2
・個別栄養食事管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・入院時食事療養費(I)
・がん診療連携拠点病院加算(基幹型)	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・感染防止対策地域連携加算	
・抗菌薬適正使用支援加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和2年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算)	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・高度難聴指導管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ	・遺伝学的検査
・外来緩和ケア管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・糖尿病透析予防指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・慢性維持透析患者外来医学管理料の注3に掲げる腎代替療法実績加算	・先天性代謝異常性検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・院内トリアージ実施料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来放射線照射診療料	・検体検査管理加算(IV)
・ニコチン依存症管理料	・国際標準検査管理加算
・療養・就労両立支援指導料	・遺伝カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・がん治療連携管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・植込型心電図検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・薬剤管理指導料	・胎児心エコー法
・医療機器安全管理料1、2	・ヘッドアップティルト試験
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)(旧:総合医療管理料I)	・人工臓器検査
・歯科治療総合医療管理料(旧:総合医療管理料II)	・皮下連続式グルコース測定
・婦人科特定疾患治療管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)	・光トポグラフィー
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・神経学的検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和2年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・補聴器適合検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・ロービジョン検査判断料	・精神科作業療法
・コンタクトレンズ検査料1	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・食物アレルギー負荷検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料
・センチネルリンパ節生検(片側)	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算2	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・遠隔画像診断	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層、磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・人工腎臓
・CT撮影及びMRI撮影	・導入期加算2
・冠動脈CT撮影加算	・透析液水質確保加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・慢性維持透析濾過加算
・外傷全身CT加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・大腸CT加算	・人工膵臓療法
・心臓MRI撮影加算	・一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するものに限る。)
・乳房MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・口腔粘膜処置
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・CAD/CAM冠
・外来化学療法加算1	・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・廃用症候群リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・椎間板内酵素注入療法
・運動器リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算含む	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・がん患者リハビリテーション料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和2年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術(内視鏡によるもの)、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	
・網膜再建術	
・人工中耳植込術	・経皮的冠動脈形成術
・人工内耳植込術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍を含む。)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・内視鏡下甲状腺部分切除	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・腺腫摘出術	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・補助人工心臓
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的動脈遮断術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ダメージコントロール手術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下筋層切開術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
	・腹腔鏡下肝切除術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科) 令和2年10月1日現在

施設基準の種類	施設基準の種類
・生体部分肝移植術	・自己生体組織接着剤作成術
・同種死体肝移植術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・歯根端切除手術の注3
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・口腔粘膜血管腫凝固術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・レーザー機器加算の施設基準
・腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・麻酔管理料(II)
・同種死体腎移植術	・放射線治療専任加算
・生体腎移植術	・外来放射線治療加算
・膀胱水圧拡張術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・1回線量増加加算(高エネルギー放射線治療)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・1回線量増加加算(強度変調放射線治療(IMRT)前立腺照射)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・定位放射線治療
・胎児輸血術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術	・画像誘導密封小線源治療加算
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・医科点数表第2章第10部手術の通則の20に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)	・デジタル病理画像による病理診断
・輸血管理料 I	・病理診断管理加算2
・輸血適正使用加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・コーディネート体制充実加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	7 回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 25 例 / 剖検率 7.4 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
クローン性造血に着目した心不全に対する新しい治療戦略	竹石 恭知	循環器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
心筋梗塞後リモデリングにおけるDNA損傷応答-炎症関連の探索	石田 隆史	循環器内科	100,000	補委 日本学術振興会
肺高血圧症と脂質代謝異常の接点-治療標的・バイオマーカーとしてのMT1-MMP	杉本 浩一	循環器内科	400,000	補委 日本学術振興会
放射線治療にともなう心血管疾患の分子病態の解明と予知-DNA損傷の視点から	石田 隆史	循環器内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
バイオマーカーと形態診断モダリティによる肺高血圧症の診断と治療効果判定法の確立	中里 和彦	循環器内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
心不全患者における新しい体流量評価法を用いた診療体制の確立	佐藤 崇匡	循環器内科	800,000	補委 日本学術振興会
Calreticulin (CALR) 変異による骨髄増殖性疾患に合併した肺高血圧症の分子メカニズム解明	横川 哲朗	循環器内科	1,500,000	補委 日本学術振興会
DNA損傷と炎症から見た心血管画像診断・インターベンションによる放射線被曝の影響	脇岡 奈保子	循環器内科	900,000	補委 日本学術振興会
選択的小胞体分解(ERファジー)に着目した心不全における細胞内品質管理の意義	三阪 智史	循環器内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
¹³ N-ammonia PET/MRIによるTAVI前後での心筋血流評価	喜古 崇豊	循環器内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤による心不全発症機序の解明	清水 竹史	循環器内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
髄外造血に注目したJAK2V617F変異に伴う肺高血圧症のメカニズムの解明	君島 勇輔	循環器内科	1,700,000	補委 日本学術振興会
拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	竹石 恭知	循環器内科	200,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
特発性心筋症に関する調査研究	竹石 恭知	循環器内科	350,000	補委 厚生労働省
左室収縮の保持された心不全におけるフレイル対策および腹腔臓器機能に関する検討	義久 精臣	循環器内科	320,000	補委 公立大学法人福島県立医科大学
器質的心疾患に伴う心室頻拍アブレーションにおける焼灼巣評価の新たな指標の検討	松本 善幸	循環器内科	320,000	補委 公立大学法人福島県立医科大学

腹部血管超音波検査による心不全患者の臓器うっ血/低灌流の非侵襲的計測法の開発及びその予後予測能の検討	一條 靖洋	循環器内科	320,000	補委	公立大学 法人福島 県立医科 大学
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大平 弘正	消化器内科	280,000	補委	厚生労働 省科学研 究費
自己免疫性肝炎におけるエクソソームの網羅的解析と病態への関与	大平 弘正	消化器内科	900,000	補委	文部科学 省科学研 究費基盤 研究(C)
エクオールは非アルコール性脂肪性肝疾患の発症・治療の鍵となるのか?	高橋 敦史	消化器内科	900,000	補委	文部科学 省科学研 究費基盤 研究(C)
MIC-1は胆管癌診療を変えるか?	杉本 充	消化器内科	1,400,000	補委	文部科学 省科学研 究費若手 研究
非アルコール性脂肪肝疾患の病態におけるレクチン経路、第二経路の影響の解明	林 学	消化器内科	800,000	補委	文部科学 省科学研 究費若手 研究
炎症性腸疾患における補体の影響の解明と新規抗補体薬の有効性	高住 美香	消化器内科	800,000	補委	文部科学 省科学研 究費若手 研究
家族性地中海熱(FMF)インフラマソームシグナル伝達異常をゲノム創薬で解決する開発研究	右田 清志	リウマチ膠原病内科	1470863	補委	日本医療 研究開発 機構
シーズ探索研究から発展する家族性地中海熱(FMF)に対するトシリズマブの医師主導治験	右田 清志	リウマチ膠原病内科	989444	補委	日本医療 研究開発 機構
自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	右田 清志	リウマチ膠原病内科	500000	補委	厚生労働 省
トルコと日本の自己炎症疾患発症責任分子複合体を活性化する生体・環境因子の比較調査	右田 清志	リウマチ膠原病内科	200,000	補委	文部科学 省
自己炎症バイオマーカーによるリウマチ性疾患の新たな分類と治療法の確立	右田 清志	リウマチ膠原病内科	2,134,016	補委	文部科学 省
診療連携・国際連携をも視野に入れた、生活習慣病、CKDの診療の向上に直結する他施設長期コホート研究	風間 順一郎	腎臓高血圧内科学講座	100,000	補委	筑波大学 (AMED)
尿細管障害に着目したたネフローゼ症候群の非侵襲的診断法の開発	加藤 彩	腎臓高血圧内科学講座	1,500,000	補委	日本学術 振興会
糖尿病合併冠動脈疾患レズトリーを基盤としたコルヒチン第3相検証的試験の実施とRCT On Registryに向けたレジストリデータの品質管理と標準化に関する研究	島袋 充生	糖尿病内分泌代謝内科学講座	1,090,920	補委	AMED (琉球大学 主幹)
食行動と糖尿病: 脳腸相関機序の解析	工藤 明宏	糖尿病内分泌代謝内科学講座	1,100,000	補委	文科科研 費
空腹時低血糖カテゴリーにおける新規糖尿病発症のメカニズム	尾形 絵美	糖尿病内分泌代謝内科学講座	400,000	補委	文科科研 費
呼気硫化水素を用いた気管支喘息の難治化および増悪予測の検討	斎藤 純平	呼吸器内科	1,040,000	補委	日本学術 振興会

薬剤性及び放射線肺障害の新規バイオマーカー探索による肺がん個別化治療の確立	谷野 功典	呼吸器内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ホモシステイン誘導小胞体ストレスは慢性閉塞性肺疾患の病態に関与しているか？	柴田 陽光	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ホルモン受容体陽性乳癌におけるHER3の分解制御因子の解明と治療効果との相関性	研究代表者: 佐治 重衡	腫瘍内科学講座	1,560,000	補委	科学研究費助成事業／基盤研究◎
StageIV 乳癌に対する予後の改善を目指した標準治療の確立に関する研究	研究代表者: 枝園 忠彦 研究分担者: 佐治 重衡	国立大学法人岡山大学 腫瘍内科学講座	1,300,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業
高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル	研究分担者: 田村 研治 研究分担者: 佐治 重衡	国立がん研究センター 腫瘍内科学講座	455,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業
3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究	研究分担者: 田村 研治 研究分担者: 佐治 重衡	国立がん研究センター 腫瘍内科学講座	300,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
低酸素下乳がんにおけるERBB制御と放射線応答	谷本 圭司 佐治 重衡	広島大学 腫瘍内科学講座	300,000	補委	トライアングルプロジェクト研究費
網羅的遺伝子発現解析技術を用いたKRAS変異肺癌における新規バイオマーカーの探索	山浦 匠	呼吸器外科学講座	650,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬の効果予測因子としての腸内フローラの研究	尾崎(大和田) 有紀	呼吸器外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
センシングデバイスによる画期的な肺野微小病変同定法の新規開発	長谷川 剛生	呼吸器外科学講座	260,000	補委	日本学術振興会
コンピューターアシストを利用した、肺癌リンパ節転移の新たな画像評価法の開発	星野 実加	呼吸器外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
MonoTrapを用いた生体揮発性有機物(VOC)による肺癌診断の試み	井上 卓哉	呼吸器外科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌に対するNeo-antigenを標的とした新たな複合免疫療法の開発	鈴木 弘行	呼吸器外科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬耐性メカニズムの解明とその克服	武藤 哲史	呼吸器外科学講座	2,470,000	補委	日本学術振興会
タイト結合分子に着目した悪性中皮腫の新規診断・治療標的の同定	渡部 晶之	呼吸器外科学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会
小細胞肺癌に対するNOTCHシグナリングを標的とした新規免疫放射線療法の開発	高木 玄教	呼吸器外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会
食道扁平上皮癌に対する放射線照射＋Nivolumab併用療法の開発	河野 浩二	消化管外科学講座	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
消化管癌に対するANXA1を用いた抗がん剤耐性出現モニタリング	小野澤 寿志	消化管外科学講座	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

大腸癌のゲノム・エピゲノム異常による短縮型癌関連糖鎖誘導と免疫抑制機構の解明	岡山 洋和	消化管外科学講座	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌間質トランスクリプトミクスを応用した個別的微小環境戦略の確立	大木 進司	消化管外科学講座	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌における抗癌剤耐性に関与する薬剤トランスポーターの役割の解明	門馬 智之	消化管外科学講座	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IL-6/STAT3シグナルの介するCDX2の胃癌発生への関与の解明	齋藤 元伸	消化管外科学講座	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規癌治療ターゲットとしてのベータアレスチン経路の可能性	坂本 渉	消化管外科学講座	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血液・組織検体のEMTモニタリングによるStage II・III食道癌個別化医療の試み	藤田 正太郎	消化管外科学講座	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるFコース転移酵素発現異常の意義	野田 勝	消化管外科学講座	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者エフェクター細胞を用いた脱Fコシル化抗体のADCC活性解析	中島 隆宏	消化管外科学講座	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小児甲状腺がんにおける情報提供と相談支援の体制構築のための研究	鈴木 眞一	甲状腺内分泌学講座	5,185,000	補委	厚生労働省
事故後に発見された小児若年者甲状腺疾患のメカニズムに関する研究	鈴木 眞一	甲状腺内分泌学講座	9,345,000	補委	環境省
神経皮膚症候群に関する診療科横断的な診療体制の確立	齋藤 清	脳神経外科	800,000	補委	厚生労働省
レーザー光源による手術顕微鏡の新しい機能開発:脳血流量2次元表示と絶対値の測定	齋藤 清	脳神経外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
福島県の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	佐久間 潤	脳神経外科	900,000	補委	日本学術振興会
超高速定量画像MRFを用いた非侵襲的脳腫瘍診断システムの開発	佐藤 拓	脳神経外科	700,000	補委	日本学術振興会
脳腫瘍の神経伝導と硬さ因子の解明:機能温存と安全性の高い手術法の開発	岩楯 兼尚	脳神経外科	2,000,000	補委	日本学術振興会
ラット腰椎椎間板ヘルニアモデルへの社会的敗北ストレス負荷が及ぼす影響	紺野 慎一	整形外科	140,000	補委	日本学術振興会
ロコモティブシンドロームにおける要介護の予測因子の解明(LOHAS研究)	関口 美穂	整形外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
地域在住高齢者の身体機能低下から中長期の健康アウトカムを予測する研究	富永 亮司	整形外科	780,000	補委	日本学術振興会

眼内補体因子および関連蛋白計測による加齢黄斑変性発症機構の解明	石龍 鉄樹	眼科	650,000	補委	科学研究費助成事業基盤研究(C)
577nm閾値下レーザー至適凝固条件設定のための探索的研究	笠井 暁仁	眼科	2,080,000	補委	科学研究費助成事業若手研究
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究	尹 浩信、山本 俊幸、他	皮膚科	150,000	補委	熊本大学
全身性强皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	尹 浩信、山本 俊幸、他	皮膚科	100,000	補委	熊本大学
前立腺肥大症における自己免疫反応応答と微生物感染によるインフラマソーム制御機構の解明	小島 祥敬	泌尿器科・副腎内分泌外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
リゾリン脂質に着目した膀胱癌再発・進展メカニズムの解明と新規治療の開発	片岡 政雄	泌尿器科・副腎内分泌外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
NOS uncouplingを標的とした新規過活動膀胱治療薬開発に向けた基礎的研究	赤井畑 秀則	泌尿器科・副腎内分泌外科	800,000	補委	日本学術振興会
前立腺肥大症における自己抗原認識による補体活性化機構の解明	秦 淳也	泌尿器科・副腎内分泌外科	600,000	補委	日本学術振興会
ISYNA1による細胞内ミオインシトール合成制御からの腎細胞癌抑制機序の解明	胡口 智之	泌尿器科・副腎内分泌外科	210,000	補委	日本学術振興会
SGLT2糖輸送経路に着目したAR抑制による前立腺癌増殖抑制機構の解明	星 誠二	泌尿器科・副腎内分泌外科	1,900,000	補委	日本学術振興会
次世代シークエンサーを用いた病原体侵入に起因する前立腺肥大症発症機序の解明	本田 瑠璃子	泌尿器科・副腎内分泌外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
HPV関連中咽頭癌の高転移性をHPV E5シグナル伝達から解明する	室野 重之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	補委	日本学術振興会
扁桃組織におけるmultifocalなヒトパピローマウイルス感染に関する研究	鈴木 俊彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
宿主リン酸化酵素阻害による喉頭乳頭腫の新規治療の開発	川瀬 友貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000,000	補委	日本学術振興会
ブレインリソースの活用支援	矢部 博興	心身医療科	1,674,000	補委	文科省新学術
統合失調症早期発見のためのMMN時間統合研究と原発事故影響の生理的検証	矢部 博興	心身医療科	1,892,906	補委	文科省基盤C
統合失調症へのオキシトシン点鼻薬による自動的聴覚識別機能への効果	志賀 哲也	心身医療科	568,166	補委	文科省若手B
オキシトシンが統合失調症の臨床症状・社会行動障害に与える影響についての検討	三浦 至	心身医療科	501,127	補委	文科省基盤C

簡易客観的精神機能検査による「うつ病エピソード」の型分類は治療計画立案に有用か？	丹羽 真一	心身医療科	1,158,600	補委	文科省基盤C
プロジェクトリターン2017:原発事故後に避難した精神科入院患者の帰還支援の試み	後藤 大介	心身医療科	4,509,575	補委	文科省萌芽
死後脳マルチオミクス・プロファイルに基づく統合失調症病態の構成的理解	國井 泰人	心身医療科	3,000,000	補委	文科省新学術
統合失調症死後脳における Pro to Glu 経路の分子プロファイル解析	國井 泰人	心身医療科	1,500,000	補委	文科省基盤C
統合失調症死後脳におけるプロリン代謝経路内分子の発現解析	長岡 敦子	心身医療科	1,100,000	補委	文科省スタート支援
福島地区の精神疾患拠点の構築	矢部 博興	心身医療科	1,946,115	補委	AMED
死後脳リソースを活用した統合失調症における代謝・ダイナミクス制御関連分子の解析	國井 泰人	心身医療科	4,050,955	補委	AMED
Parkinson病及びAlzheimer病 ディメンジョンを対象とした包括的神経画像研究	矢部 博興	心身医療科	5,791,007	補委	AMED
脳ゲノム情報解析による精神疾患関連神経回路の同定と機能解明	國井 泰人	心身医療科	4,983,330	補委	AMED
成人期注意欠陥多動性障害の診断用バイオマーカーの開発: マルチモデルアプローチ	矢部 博興	心身医療科	10,159,711	補委	ヤンセン
統合失調症患者を対象とした抗精神病薬の抗うつ作用の検討: ランダム化比較試験の系統的レビューとメタ解析	三浦 至	心身医療科	0	補委	大日本住友
ミスマッチ陰性電位(MMN)における覚醒水準の影響について	菅野 和子	心身医療科	500,000	補委	福島県立医科大学
進行がんに対する免疫放射線治療開発のためのトランスレーショナル研究	吉本 由哉	放射線治療科	1,300,000	補委	新学術領域研究「学術研究支援基盤形成 先進ゲノム支援」
放射線治療が行われた扁平上皮癌患者における腫瘍免疫学的解説と治療効果との相関	田巻 倫明	放射線治療科	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業 独立行政法人日本学術振興会
再発胃癌患者に対する放射線治療と抗PD-1抗体併用療法の腫瘍免疫学的解析	鈴木 義行	放射線治療科	1,430,000	補委	日本学術振興会
α線核種によるがん治療の線量評価に基づく正常細胞障害の解明に関する研究	織内 昇	核医学科	4,030,000	補委	日本学術振興会
Precision Medicine 時代を切り拓く11C標識メチオニンの脳腫瘍診断に関する研究-薬剤自動合成装置の医療機器承認取	織内 昇	核医学科	600,000	補委	日本医用研究開発機構
術後せん妄と脳内神経伝達物質受容体発現に関する研究	村川 雅洋	麻酔・疼痛緩和科	1,200,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金

全身麻酔薬が抗がん剤による免疫抑制に与える影響とその機序の解析	黒澤 伸	麻酔・疼痛緩和科	1,200,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金
内因性鎮痛の減弱と脳・脊髄ミクログリアの活性化は遷延性術後痛の指標となるか？	中野 裕子	麻酔・疼痛緩和科	400,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金
中脳辺縁系ドパミン神経系の減弱は慢性痛および注意欠陥多動性障害と関連があるか？	本田 潤	麻酔・疼痛緩和科	900,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金
急性呼吸窮迫症候群(ARDS)における酸素ナノバブル経静脈投与の有効性の検討	吉田 圭佑	麻酔・疼痛緩和科	1,400,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金
局所麻酔薬の複数同時使用中の中毒閾値に関する研究	野地 善恵	麻酔・疼痛緩和科	1,000,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金
低用量ステロイド投与が免疫系に与える影響とその機序の解析	江花 英朗	麻酔・疼痛緩和科	320,000	補委	公立大学法人福島県立医科大学令和元年度研究支援事業育成研究
褐色脂肪細胞及びベージュ脂肪細胞の個体差が周術期体温に及ぼす影響	井石 雄三	集中治療部	300,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金
敗血症性せん妄におけるカンナビノイドの影響	箱崎 貴大	集中治療部	320,000	補委	公立大学法人福島県立医科大学令和元年度研究支援事業育成研究
巨核球ニッチと髄外造血・骨髄増殖性腫瘍変異の役割	池田 和彦	輸血・移植免疫部	4,000,000	補委	上原記念生命科学財団研究推進特別奨励金
骨髄増殖性腫瘍の病態進展におけるドライバー変異とヒストン修飾因子異常の相互的役割	池田 和彦	輸血・移植免疫部	1,950,000	補委	科研費 基盤研究◎
乳癌におけるT細胞を用いた免疫細胞療法の開発	三村 耕作	輸血・移植免疫部	4,550,000	補委	科研費 基盤研究◎
VEGR receptor-2が介するM2 type Macrophageにおける免疫調節機構の解明	三村 耕作	輸血・移植免疫部	1,000,000	補委	日本イーライリリー株式会社 奨学寄附金
卵細胞質内精子注入法に特化した精子選択法・精子評価法の確立と治療前診断への応用	菅沼 亮太	生殖医療センター	3,722,048	補委	日本学術振興会
プロバイオティクスを用いた放射性線性腸管粘膜障害の改善と敗血症発症抑制効果の検討	仲村 究 金光 敬二	感染制御部	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
原発避難区域を含む福島県内全域のダニ媒介性感染症の調査と新たな診断手法の開発	金光 敬二 仲村 究	感染制御部	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

計121件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Akiomi Yoshihisa, Takamasa Sato, Katsuya Kajimoto, et al.	循環器内科	Heterogeneous impact of the body mass index on in-hospital mortality in acute heart failure syndromes: An analysis from the ATTEND Registry	European Heart Journal: Acute Cardiovascular Care. 201910; 8: 589-598	Original Article
2	Yasuchika Takeishi, Takatoyo Kiko, Tetsuro Yokokawa, et al.	循環器内科	Takayasu arteritis detected by PET/MRI with ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose	Journal of Nuclear Cardiology. 202002; 27: 333-335	Original Article
3	Naoko Hijioka, Masashi Kamioka, Yoshiyuki Matsumoto, et al.	循環器内科	Clinical impact of insulin resistance on pulmonary vein isolation outcome in patients with paroxysmal atrial fibrillation	Journal of Cardiovascular Electrophysiology. 201904; 30: 479-486	Original Article
4	Tetsuro Yokokawa, Koichi Sugimoto, Kazuhiko Nakazato, et al.	循環器内科	Electrocardiographic criteria of right ventricular hypertrophy in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension after balloon pulmonary angioplasty	Internal Medicine. 201908; 58: 2139-2144	Original Article
5	Tomofumi Misaka, Akiomi Yoshihisa, Tetsuro Yokokawa, et al.	循環器内科	Plasma levels of melatonin in dilated cardiomyopathy	Journal of Pineal Research. 201905; 66: e12564	Original Article
6	Akiomi Yoshihisa, Tetsuro Yokokawa, Tomofumi Misaka, et al.	循環器内科	Soluble neprilysin does not correlate with prognosis in pulmonary hypertension	ESC Heart Failure. 201904; 6: 291-296	Original Article
7	Tetsuro Yokokawa, Hiroyuki Kunii, Takashi Kaneshiro, et al.	循環器内科	Regressed coronary ostial stenosis in a young female with Takayasu arteritis: a case report	BMC Cardiovascular Disorders. 201904; 19: 79	Case report
8	Tetsuro Yokokawa, Koichi Sugimoto, Akiomi Yoshihisa, et al.	循環器内科	The fibrosis-4 index is useful for predicting mortality in patients with pulmonary hypertension due to left heart disease	International Heart Journal. 201909; 60: 1147-1153	Original Article
9	Yusuke Kimishima, Akiomi Yoshihisa, Takatoyo Kiko, et al.	循環器内科	Utility of B-type natriuretic peptide for detecting cardiac involvement in immunoglobulin amyloidosis	International Heart Journal. 201909; 60: 1106-1112	Original Article
10	Akiomi Yoshihisa, Yasuhiro Ichijo, Koichiro Watanabe, et al.	循環器内科	Prior history and incidence of cancer impacts on cardiac prognosis in hospitalized patients with heart failure	Circulation Journal. 201907; 83: 1709-1717	Original Article
11	Tetsuro Yokokawa, Koichi Sugimoto, Yusuke Kimishima, et al.	循環器内科	Pulmonary hypertension and hereditary hemorrhagic telangiectasia related to an ACVRL1 mutation	Internal Medicine. 202001; 59: 221-227	Original Article

12	Akiomi Yoshihisa, Tomofumi Misaka, Yuki Kanno, et al.	循環器内科	Prognostic impact of restless legs syndrome on patients with heart failure	International Heart Journal. 201909; 60: 1098-1105	Original Article
13	Tetsuro Yokokawa, Akiomi Yoshihisa, Yuki Kanno, et al.	循環器内科	Circulating acetoacetate is associated with poor prognosis in heart failure patients	International Journal of Cardiology Heart & Vasculature. 201912; 25: 100432	Original Article
14	Takatoyo Kiko, Takamasa Sato, Tetsuro Yokokawa, et al.	循環器内科	Subacute constrictive pericarditis postcardiac surgery evaluated by ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/magnetic resonance imaging	Circulation: Cardiovascular Imaging. 201911; 12: e009764 (オンライン)	Original Article
15	Koichi Sugimoto, Tetsuro Yokokawa, Tomofumi Misaka, et al.	循環器内科	Senescence marker protein 30 deficiency exacerbates pulmonary hypertension in hypoxia-exposed mice	International Heart Journal. 201911; 60: 1430-1434	Original Article
16	Tetsuro Yokokawa, Shohei Ichimura, Naoko Hijioka, et al.	循環器内科	Case reports of a c.475G>T, p.E159* lamin A/C mutation with a family history of conduction disorder, dilated cardiomyopathy and sudden cardiac death	BMC Cardiovascular Disorders. 201912; 19: 298	Case report
17	Tetsuro Yokokawa, Akiomi Yoshihisa, Takatoyo Kiko, et al.	循環器内科	Residual gensini score is associated with long-term cardiac mortality in patients with heart failure after percutaneous coronary intervention	Circulation Reports. 202002; 2: 89-94	Original Article
18	Yasuhiro Ichijo, Soichi Kono, Akiomi Yoshihisa, et al.	循環器内科	Impaired frontal brain activity in patients with heart failure assessed by near-infrared spectroscopy	Journal of the American Heart Association. 202002; 9: e014564 (オンライン)	Original Article
19	Koichi Sugimoto, Akiomi Yoshihisa, Kazuhiko Nakazato, et al.	循環器内科	Significance of pulmonary vascular resistance and diastolic pressure gradient on the new definition of combined post-capillary pulmonary hypertension	International Heart Journal. 202003; 61: 301-307	Original Article
20	Hayashi M, Abe K, Fujita M, et al.	消化器内科	Changes in serum levels of leucine-rich α 2-glycoprotein predict prognosis in primary biliary cholangitis.	Hepato Res. 2019 Apr; 49: 385-93.	Original Article
21	Fujita M, Okai K, Hayashi M, et al.	消化器内科	Huge hepatocellular carcinoma treated with radical hepatectomy after drug-eluting bead transarterial chemoembolization.	Intern Med. 2019 Ari; 58: 1103-10.	Case report
22	Fujita M, Takahashi A, Hayashi M, et al.	消化器内科	Skeletal muscle volume loss during transarterial chemoembolization predicts poor prognosis in patients with hepatocellular carcinoma.	Hepato Res. 2019 Jul; 49: 778-86.	Original Article
23	Asano T, Sato S, Furuya MY, et al.	消化器内科	Intestinal Behçet disease associated with myelodysplastic syndrome accompanying trisomy 8 successfully treated with abdominal surgery followed by hematopoietic stem cell transplantation: A case report.	Medicine (Baltimore). 2019 Nov (オンライン).	Case report

24	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al.	消化器内科	Prevention of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis using pancreatic stents: A review of efficacy, diameter and length.	World J Meta-Anal. 2019 Jun; 7: 259-68.	Review
25	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al.	消化器内科	Pancreatic stents to prevent post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis: A meta-analysis.	World J Meta-Anal 2019 May; 7: 249-58.	Original Article
26	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al.	消化器内科	Present state of endoscopic ultrasonography-guided fine needle aspiration for the diagnosis of autoimmune pancreatitis type 1.	World J Meta-Anal. 2019 May; 7: 218-23.	Review
27	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al.	消化器内科	Can the wet suction technique change the efficacy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for diagnosing autoimmune pancreatitis type 1? A prospective single-arm study.	World J Clin Cases. 2020 Jan; 8 :88-96.	Original Article
28	Hayashi M, Abe K, Fujita M, et al.	消化器内科	Acute kidney injury after platinum-based transcatheter arterial chemoembolization and transarterial infusion chemotherapy in patients with hepatocellular carcinoma.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Jan; 50:36-43.	Original Article
29	Irie H, Suzuki R, Takagi T, et al.	消化器内科	Interstitial lung disease in advanced pancreatic ductal adenocarcinoma patients treated with gemcitabine and nab-paclitaxel combination therapy: a retrospective analysis.	Cancer Chemother Pharmacol. 2020 Mar; 85: 517-23.	Original Article
30	Temmoku J, Sato S, Fujita Y, et al.	リウマチ膠原病内科	Clinical significance of myositis-specific autoantibody profiles in Japanese patients with polymyositis/dermatomyositis	Medicine (Baltimore). 98(20):e15578, 2019.	Original Article
31	Matsuoka N, Kozuru H, Koga T, et al.	リウマチ膠原病内科	Galectin-9 in autoimmune hepatitis: Correlation between serum levels of galectin-9 and M2BPGI in patients with autoimmune hepatitis.	Medicine (Baltimore). 2019 Aug;98(35):e16924.	Original Article
32	Fujita Y, Furukawa H, Asano T, et al.	リウマチ膠原病内科	HLA-DQB1 DPB1 alleles in Japanese patients with adult-onset Still's disease.	Mod Rheumatol. 2019 Sep;29(5):843-847.	Original Article
33	Fujita Y, Matsuoka N, Temmoku J, et al.	リウマチ膠原病内科	Hydroxychloroquine inhibits IL-1 β production from amyloid-stimulated human neutrophils.	Arthritis Res Ther. 2019 Nov 27;21(1):250.	Original Article
34	Asano T, Sato S, Furuya MY, et al.	リウマチ膠原病内科	Intestinal Behçet disease associated with myelodysplastic syndrome accompanying trisomy 8 successfully treated with abdominal surgery followed by hematopoietic stem cell transplantation: A case report.	Medicine (Baltimore). 2019 Nov;98(46):e17979.	Case report

35	Furuya MY, Temmoku J, Fujita Y, et al.	リウマチ膠原病内科	Vasculo-Behçet disease complicated by conversion disorder diagnosed with 18F-fluoro-deoxy-glucose positron emission tomography combined with computed tomography (PET/CT).	Fukushima J Med Sci. 2019 Aug 30;65(2):55-60.	Case report
36	Matsumoto H, Sato S, Fujita Y, et al.	リウマチ膠原病内科	Rheumatoid Arthritis Complicated with Anti-melanoma Differentiation-associated Gene 5 Antibody-positive Interstitial Pneumonia.	Intern Med. 2019 Mar 1;58(5):737-742.	Case report
37	Sato S, Matsumoto H, Temmoku J, et al.	リウマチ膠原病内科	A case of Takayasu arteritis complicated by refractory ulcerative colitis successfully treated with tofacitinib.	Rheumatology (Oxford). 2019 Nov 27.	Case report
38	Matsuoka N, Asano T, Sato S, et al.	リウマチ膠原病内科	A case of dermatomyositis complicated with pleural effusion and massive ascites.	Fukushima J. Med. Sci. 2019 Dec 11;65(3):1-6.	Case report
39	Fujita Y, Asano T, Sato S, et al.	リウマチ膠原病内科	Coexistence of Mixed Connective Tissue Disease and Familial Mediterranean Fever in a Japanese Patient.	Intern Med. 2019 Aug 1;58(15):2235-2240.	Case report
40	Nakajima A, Tanaka K, Saito H, et al.	腎臓・高血圧内科	Blood pressure control in chronic kidney disease according to underlying renal disease: the Fukushima CKD cohort.	Clin Exp Nephrol•2019/12	Original Article
41	Saito Hirota, Tanaka Kenichi, Fujiwara Momoko, et al.	腎臓・高血圧内科	Pathological findings of progressive renal involvement in a patient with TAFRO syndrome	CEN Case Reports/2019/11	Case report
42	Saito H, Tanaka K, Fujiwara M, et al.	腎臓・高血圧内科	Pathological findings of progressive renal involvement in a patient with TAFRO syndrome.	CEN Case Reports/2019/11	Case report
43	Kudo Akihiro, Asahi K, Satoh H,	糖尿病内分泌代謝内科学講座	Fast eating is a strong risk factor for new-onset diabetes among the Japanese general population.	Scientific Reports, 9(1), 8210, 2019 Jun.	Original Article
44	Hirai Hiroyuki, Asahi K, Yamaguchi S,	糖尿病内分泌代謝内科学講座	New risk prediction model of coronary heart disease in participants with and without diabetes: Assessments of the Framingham risk and Suita scores in 3-year longitudinal database in a Japanese population.	Scientific Reports, 9(1), 2813, 2019 Feb.	Original Article
45	Hirai Hiroyuki, Higa M, Morimoto T,	糖尿病内分泌代謝内科学講座	Dissimilar Effects of Anagliptin and Sitagliptin on Lipoprotein Subclass in Standard or Strong Statin-Treated Patients with Type-2 Diabetes Mellitus: A Subanalysis of the REASON (Randomized Evaluation of Anagliptin versus Sitagliptin on Low-Density Lipoprotein Cholesterol in Diabetes) Trial.	Journal of Clinical Medicine, 9(1), 93, 2019 Dec.	Original Article
46	Shimabukuro Michio	糖尿病内分泌代謝内科学講座	SIRT1 and Gender Differences in Atherosclerotic Cardiovascular Disease.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 27(1), 8-10, 2020 Jan.	Original Article
47	Maimaituxun G, Fukuda D, Izaki H,	糖尿病内分泌代謝内科学講座	Levels of Adiponectin Expression in Peri-Renal and Subcutaneous Adipose Tissue and Its Determinants in Human Biopsied Samples.	Frontiers in Endocrinology, 10, 897, 2020 Feb.	Original Article

48	Maimaituxun G, Yamada H, Fukuda D,	糖尿病内分泌代謝内科学講座	Association of Local Epicardial Adipose Tissue Depots and Left Ventricular Diastolic Performance in Patients With Preserved Left Ventricular Ejection Fraction.	Circulation Journal, 84(2), 203-216, 2020 Jan.	Original Article
49	Saito J, Kikuchi M, Fukuhara A et al.	呼吸器内科	Comparison of fractional exhaled nitric oxide levels measured by different analyzers produced by different manufacturers	Journal of Asthma, 2019 Jul 22	Original Article
50	Fukuhara A, Saito J, Birring SS et al.	呼吸器内科	Clinical Characteristics of Cough Frequency Patterns in Patients with and without Asthma	Journal of Allergy and Clinical Immunology: in Practice, 2020 Feb	Original Article
51	Tanino Y, Wang X, Nikaido T et al.	呼吸器内科	Syndecan-4 inhibits the development of pulmonary fibrosis by attenuating TGF-beta signaling	CInternational Journal of Molecular Sciences, 2019 Oct	Original Article
52	Suzuki Y, Kanazawa K, Kanai R et al.	呼吸器内科	A case of primary lung squamous cell carcinoma mimicking malignant mesothelioma producing granulocyte colony stimulating factor with	Lung cancer, 2019 Oct	Case report
53	Gono T, Tanino Y, Nishikawa A et al.	呼吸器内科	Two Cases with Autoantibodies to Small Ubiquitin-like Modifier Activating Enzyme: A Potential Unique Subset of Dermatomyositis-associated	International Journal of Rheumatic Diseases, 2019 Aug	Case report
54	Sato Y, Tanino Y, Nikaido T et al.	呼吸器内科	Clinical Significance of Thyroid Hormone and Antibodies in Patients With Idiopathic Interstitial Pneumonia	Journal of Thoracic Disease, 2020 Mar	Original Article
55	Gonda K, Akama T, Nakamura T, et al.	福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センター	Cluster of differentiation 8 and programmed cell death ligand 1 expression in triple-negative breast cancer combined with autosomal dominant polycystic kidney disease and tuberous sclerosis complex: a case report.	J Med Case Rep. 13(1):381; Dec 2019.	Case report
56	Abe Y, Noji H, Miura T, et al.	福島県立医科大学 医学部 放射線生命科学科	Investigation of the cumulative number of chromosome aberrations induced by three consecutive CT examinations in eight patients.	J Radiat Res. 60(6):729-739; Nov 2019.	Case report
57	Kanade kobayashi	総合内科	Effect of Edaravon on Neurological Symptoms in Real-World patients With Acute Ischemic Stroke	Stroke/2019/6/5	Original Article
58	Hasegawa T, Ozaki Y, Inoue T, et al.	呼吸器外科学講座	Nivolumab-related severe thrombocytopenia in a patient with relapsed lung adenocarcinoma: a case report and review of the literature.	J Med Case Rep. 2019 Oct; 13(1): 316	Case report
59	Ashizawa M, Okayama H, Ishigame T, Aung Kyi TM, et al.	消化管外科	miRNA-148a-3p Regulates Immunosuppression in DNA Mismatch Repair-Deficient Colorectal Cancer by Targeting PD-L1.	Mol Cancer Res. 2019.	Original Article
60	Ashizawa M, Saito M, Aung Kyi TM, Ujje D, Saito K, et al.	消化管外科	Prognostic role of ARID1A negative expression in gastric cancer.	Sci Rep.2019.	Original Article

61	Hayase S, Yamada L, Ujii D, Nirei A, et al.	消化管外科	Clinical usefulness of ramucirumab plus paclitaxel for unresectable and recurrent gastric cancer.	Fukushima J Med Sci. 2019.	Original Article
62	Kanke Y, Saito M, Abe N, Saito K, et al.	消化管外科	Expression profile of CADM1 and CADM4 in triple negative breast cancer with primary systemic therapy.	Oncol Lett. 2019.	Original Article
63	Kikuchi T, Mimura K, Ashizawa M, et al.	消化管外科	Characterization of tumor-infiltrating immune cells in relation to microbiota in colorectal cancers.	Cancer Immunol Immunother. 2019.	Original Article
64	Kikuchi T, Mimura K, Okayama H, et al.	消化管外科	A subset of patients with MSS/MSI-low-colorectal cancer showed increased CD8(+) TILs together with up-regulated IFN- γ .	Oncol Lett. 2019.	Original Article
65	Nakajima S, Ishimaru K, Kobayashi A, et al.	消化管外科	Resveratrol inhibits IL-33-mediated mast cell activation by targeting the MK2/3-PI3K/Akt axis.	Sci Rep. 2019.	Original Article
66	Sakamoto W, Yamada L, Suzuki O, et al.	消化管外科	Microanatomy of inferior mesenteric artery sheath in colorectal cancer surgery.	J Anus Rectum Colon. 2019.	Original Article
67	Ujii D, Okayama H, Saito K, Ashizawa M, et al.	消化管外科	KRT17 as a prognostic biomarker for stage II colorectal cancer.	Carcinogenesis. 2019.	Original Article
68	Yamada L, Saito M, Aung Kyi TM, et al.	消化管外科	Explore the correlation between ARID1A and ANXA1 expressions in gastric cancer.	Ann. Cancer Res. Ther. 2019	Original Article
69	Marubashi S.	肝胆膵・移植外科学講座	Surgical quality improvement programs in Japan and USA: Report from the collaborative projects between Japanese Society of Gastroenterological Surgery and American College of Surgeons National Surgical Quality Improvement Program	Ann Gastroenterol Surg. 2019 Apr 22;3(4):343-351	Review
70	Yudai Goto	小児外科	A single institution experience of Eppikajutsuto for the treatment of lymphatic malformations in children	Journal of Pediatric Surgery, 54, p2617-2620, 2019.	Original Article
71	Yudai Goto	小児外科	Congenital perianal lipoma: a case report and review of the literature	Surgical Case Reports, 5, 199-204, 2019.	Case report
72	Murakami Y, Saito K, Ito H, et al.	脳神経外科	Transferrin isoforms in cerebrospinal fluid and their relation to neurological disease	Proc Jpn Acad Ser B 95: 198-210, 2019	Original Article
73	Fujii M, Ichikawa M, Iwatate K., et al.	脳神経外科	Bevacizumab therapy of neurofibromatosis type 2 associated vestibular schwannoma in Japanese patients	Neurol Med Chir (Tokyo) 60: 75-82, 2020	Original Article

74	Kmameda Takuya	整形外科	Expression and activity of TRPA1 and TRPV1 in the intervertebral disc: Association with inflammation and matrix remodeling	International Journal of Molecular Science 2019.4	Original Article
75	Kodaira Syunsuke	整形外科	Total knee arthroplasty in Japanese patients aged 80 years old	Clinical Interventions in Aging 2019.8 15;14:681-688	Original Article
76	Konno Shin-ichi	整形外科	An open-level, 52-week, Phase III trial of Duloxetine in Japanese patients with chronic low back pain	Pain Medicine 2019.8	Original Article
77	Konno Shin-ichi	整形外科	Integrating basic knowledge and clinical ability	Journal of Orthopaedic Science 2019.6	Others
78	Kameda Takuya	整形外科	Restoration of elbow flexion with a pedicled latissimus doris myocutaneous flap to a brachial plexus injury at the terminal nerve level	PRS Global Open 2019.10	Case report
79	Kobayashi Hiroshi	整形外科	Reference values of the Japanese orthopaedic association back pain evaluation questionnaire in patients with lumbar spinal stenosis and characteristics of deterioration of QOL: Lumbar spinal stenosis Diagnosis support tool: DISTO project	Journal of Orthopaedic Science 2019.7	Original Article
80	Sato Ryohei	整形外科	Acetaminophen combined with tramadol is more effective than acetaminophen or tramadol to reduce neuropathic root pain: an experimental study with application of nucleus pulposus in a rat model	European Spine Journal 2020.1	Original Article
81	Hatashita Satoshi	整形外科	Acute masuquetel technique for reconstructing bone defects of an open lower limb fracture	European Journal of Trauma and Emergency Surgery 2020.1	Original Article
	Kaneko H, Hanaoka N, Konagaya M, et al.	眼科	Conjunctivitis Due to the Human Adenovirus Type 2 Variant Identified during Epidemic Keratoconjunctivitis Surveillance in Japan	Jpn J Infect Dis. 2020 Jul 22;73(4):316-319.	Original Article
	Sagara H, Sekiryu T, Imaizumi K, et al.	眼科	Impact of tear metrics on the reliability of perimetry in patients with dry eye	PLoS One. 2019 Sep 17;14(9):e0222467	Original Article
	Sekiryu T, Sugano Y, Ojima A, et al.	眼科	Hybrid Three-Dimensional Visualization of Choroidal Vasculature Imaged by Swept-Source Optical Coherence Tomography	Transl Vis Sci Technol. 2019 Oct 22;8(5):31.	Original Article
	Maehara H, Sekiryu T, Sugano Y, et al.	眼科	CHOROIDAL THICKNESS CHANGES IN ACUTE ZONAL OCCULT OUTER RETINOPATHY	Retina. 2019 Jan;39(1):202-209	Original Article

82	Yamamoto T, Ohtsuki M, Sano S, et al.	皮膚科学講座	Switching biologics in the treatment of psoriatic arthritis in Japan.	J Dermatol 46; e113-114, 2019	Original Article
83	Yamamoto T, Ohtsuki M, Sano S, et al.	皮膚科学講座	Late-onset psoriatic arthritis in Japanese patients	J Dermatol 46;2 169-170, 2019	Original Article
84	Hiraiwa T, Yamamoto T.	皮膚科学講座	Bone scintigraphy analysis of 44 cases of pustulotic arthro-osteitis associated with palmoplantar pustulosis.	J Dermatol 46;4 e122-e123, 2019	Original Article
85	Yamamoto T.	皮膚科学講座	Epidemiology of pyoderma gangrenosum in Japanese patients by questionnaire survey.	J Dermatol 46;4 e145-e146, 2019	Original Article
86	Yamamoto T, Hiraiwa T, Tobita R, et al.	皮膚科学講座	Characteristics of Japanese patients with pustulotic arthro-osteitis associated with palmoplantar pustulosis: a multicenter study.	Int J Dermatol [Online ahead of print]	Original Article
87	Ishikawa M, Yamamoto T.	皮膚科学講座	Antifibrotic effects of C-C chemokine receptor type 2 antagonist in a bleomycin-induced scleroderma model.	Exp Dermatol [Epub ahead of print]	Original Article
88	Mori T, Tamura N, Waguri S, et al.	皮膚科学講座	Autophagy is involved in sclerotic phase of systemic sclerosis	Fukushima J Med Sci (in press)	Original Article
89	Kikuchi N, Yamamoto T.	皮膚科学講座	Peristomal pyoderma gangrenosum: Report on 11 cases.	J Dermatol (in press)	Original Article
90	Yamamoto T, Ito T, Asano Y, et al.	皮膚科学講座	Characteristics of Japanese patients with eosinophilic fasciitis: a multicenter brief study.	J Dermatol (accepted)	Original Article
91	Matsoka K, Sato Y, Hoshi S, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	Congenital lipoid adrenal hyperplasia: Immunohistochemical study of testosterone synthesis in Leydig cells	IJU Case Rep. 2020 Jan; 3: 53-6.	Case report
92	Honda R, Onagi A, Tanji R, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	Spindle cell renal cell carcinoma diagnosed after sunitinib treatment for chromophobe renal cell carcinoma	IJU Case Rep. 2020 Jan; 3: 36-9.	Case report
93	Hata J, Machida T, Matsuoka K, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	Complement activation by autoantigen recognition in the growth process of benign prostatic hyperplasia	Sci Rep. 2019 Dec (オンライン)	Original Article
94	Kurimura Y, Haga N, Yanagida T, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	The preoperative pad test as a predictor of urinary incontinence and quality of life after robot-assisted radical prostatectomy: a prospective, observational, clinical study	Int Urol Nephrol. 2020; 52: 67-76.	Original Article

95	Onoda M, Haga N, Kurimura Y, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	Usefulness of a novel classification based on perioperative changes of membranous urethral length using hierarchical cluster analysis of urinary incontinence and overactive bladder symptoms after robot-assisted radical prostatectomy: A prospective observational study	Neurourol Urodyn. 2019; 38: 2200-8.	Original Article
96	Haga N, Akaihata H, Hata J, et al.	泌尿器科・副腎内分泌外科	The association between local arteriosclerosis of the prostatic arteries and chronic inflammation in human benign prostatic enlargement	Prostate. 2019; 79: 574-82.	Original Article
97	Imaizumi M, Suzuki T, Matsuzuka T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Low-risk assessment of swallowing impairment using flexible endoscopy without food or liquid.	Laryngoscope, 2019年10月, 129(10):2249-2252	Original Article
98	Iwasa H, Takebayashi Y, Suzuki Y, et al	心身医療科	Psychometric evaluation of the simplified Japanese version of the Athens Insomnia Scale: The Fukushima Health Management Survey.	J Sleep Res. 2019 Apr;28(2):e12771.	Original Article
99	Horikoshi S, Shiga T, Hoshino H, et al	心身医療科	The Relationship between Mismatch Negativity and the COMT Val108/158Met Genotype in Schizophrenia.	Neuropsychobiology. 2019;77(4):192-196.	Original Article
100	Itagaki S, Wada T, Yokokura S, et al	心身医療科	Study of developmental disorders among newborns in Fukushima City after the Great East Japan Earthquake and nuclear power plant accident; an adjunct study of the Fukushima Regional Center of the Japan Environmental and Children's Study (JECS).	Fukushima J Med Sci. 2019;65(1):1-5.	Original Article
101	Horikoshi S, Miura I, Ichinose M, et al	心身医療科	Low- and high-dose aripiprazole augmentation and plasma levels of homovanillic acid in major depressive disorder: A randomized, open-label study.	Hum Psychopharmacol. 2019 May 1:e2696.	Original Article
102	Jodo E, Inaba H, Narihara I, et al	心身医療科	Neonatal exposure to an inflammatory cytokine, epidermal growth factor, results in the deficits of mismatch negativity in rats.	Sci Rep. 2019 May 16;9(1):7503.	Original Article
103	Oe M, Maeda M, Ohira T, et al	心身医療科	Parental Recognition of Bullying and Associated Factors Among Children After the Fukushima Nuclear Disaster: A 3-Year Follow-Up Study From the Fukushima Health Management Survey.	Front Psychiatry. 2019 May 3;10:283.	Original Article
104	Ito M, Kunii Y, Horikoshi S, et al	心身医療科	Young patient with treatment-resistant schizophrenia drastically improved by combination of clozapine and maintenance electroconvulsive therapy: a case report.	Int Med Case Rep J. 2019 Jun 21;12:185-188.	Original Article

105	Ohnishi T, Balan S, Toyoshima M, et al	心身医療科	Investigation of betaine as a novel psychotherapeutic for schizophrenia.	EBioMedicine.2019 Jul;45:432-446.	Original Article
106	Ueda Y, Murakami M, Maeda M, et al	心身医療科	Risk Factors for Problem Drinking among Evacuees in Fukushima following the Great East Japan Earthquake: The Fukushima Health Management Survey.	Tohoku J Exp Med. 2019 Aug;248(4):239-252.	Original Article
107	Hayashi F, Sanpei M, Ohira T, et al	心身医療科	Changes in the mental health status of adolescents following the Fukushima Daiichi nuclear accident and related factors: Fukushima Health Management Survey.	J Affect Disord. 2019 Sep 10;260:432-439.	Original Article
108	Ono CT, Yu Z, Kikuchi Y, et al	心身医療科	Minimal amount of tissue-based pH measurement to improve quality control in neuropsychiatric post-mortem brain studies.	Psychiatry Clin Neurosci. 2019 Sep;73(9):566-573.	Original Article
109	Kunii Y, Hino M, Matsumoto J, et al	心身医療科	Differential protein expression of DARPP-32 versus Calcineurin in the prefrontal cortex and nucleus accumbens in schizophrenia and bipolar disorder.	Sci Rep. 2019 Oct 16;9(1):14877.	Original Article
110	Ide M, Ohnishi T, Toyoshima M, et al	心身医療科	Excess hydrogen sulfide and polysulfides production underlies a schizophrenia pathophysiology.	EMBO Mol Med. 2019 Dec;11(12):e10695.	Original Article
111	Osakabe Y, Shiga T, Hoshino H, et al	心身医療科	Do tone duration changes that elicit the mismatch negativity also affect the preceding middle latency responses?	Eur J Neurosci. 2020 Jan 1.	Original Article
112	Sakai A, Nakano H, Ohira T, et al	心身医療科	Relationship between the prevalence of polycythemia and factors observed in the mental health and lifestyle survey after the Great East Japan Earthquake.	Medicine (Baltimore). 2020 Jan;99(1):e18486.	Original Article
113	Inaba H, Namba H, Sotoyama H, et al	心身医療科	Sound frequency dependence of duration mismatch negativity recorded from awake rats.	Neuropsychopharmacol Rep. 2020 Mar;40(1):96-101.	Original Article
114	Fukasawa M, Kawakami N, Umeda M, et al	心身医療科	Longitudinal associations of radiation risk perceptions and mental health among non-evacuee residents of Fukushima prefecture seven years after the nuclear power plant disaster.	SSM Popul Health.2019 Nov 29;10:100523.	Original Article
115	Ma E, Ohira T, Sakai A, et al	心身医療科	Associations between Dietary Patterns and Cardiometabolic Risks in Japan: A Cross-Sectional Study from the Fukushima Health Management Survey, 2011-2015.	Nutrients.2020 Jan 2;12(1). pii: E129.	Original Article

116	Ichijo Y, Kono S, Yoshihisa A, et al	心身医療科	.Impaired Frontal Brain Activity in Patients With Heart Failure Assessed by Near-Infrared Spectroscopy.	J Am Heart Assoc. 2020 Feb 4;9(3):e014564.	Original Article
117	Hikita M, Shiga T, Osakabe Y, et al	心身医療科	Estimation of frequency difference at which stream segregation precedes temporal integration as reflected by omission mismatch negativity.	Biol Psychol. 2020 Mar;151:107848.	Original Article
118	Takahashi A, Ohira T, Okazaki K, et al	心身医療科	Effects of Psychological and Lifestyle Factors on Metabolic Syndrome Following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: The Fukushima Health Management Survey.	J Atheroscler Thromb. 2020 Jan 31.	Original Article
119	Horikoshi S, Kunii Y, Matsumoto J, et al	心身医療科	Does Treatment Response With Antidementia Drugs After 6 Months in Alzheimer's Disease Predict Long-term Treatment Outcome?	J Clin Psychopharmacol. 2020 Mar/Apr;40(2):195-197.	Original Article
120	Ishii S, Miyajima M, Suenaga H, et al.	放射線科	Detectability of malignant lesions by whole-body magnetic resonance imaging using whole-body integrated positron emission tomography/magnetic resonance imaging	J Comput Assist Tomogr 2019; 43: 664-670	Original Article
121	Suzuki Y, Tamaki T, Yoshimoto Y, et al	放射線治療科	Phospho-STAT1 expression as a potential biomarker for anti-PD-1/anti-PD-L1 immunotherapy for breast cancer.	Int J Oncol. 2019/4/10 54(6):2030-8	Original Article
122	Suzuki Y, Tamaki T, Yoshimoto Y, et al	放射線治療科	In Reply to Minhas and Tran.	Int J Radiat Oncol Biol and phys 2019/5/1 104:223-4	Original Article
123	Rieko Oishi, Makiko Hasegawa, Takahiro Hakozaiki, et al.	麻酔・疼痛緩和科	The accuracy of noninvasive total hemoglobin measurement in critically ill patients A exatidao da mensuracao nao invasiva de hemoglobina total em pacientes gravemente enfermos	Rev Bras Anesthesiol . Sep-Oct 2019;69(5):527-528.	Original Article
124	Keusuke Yoshida, Tsuyoshi Isosu, Tsuyoshi Imaizumi, et al.	麻酔・疼痛緩和科	Oxygen Reserve Index (ORiTM) as an alarm for oxygenation deterioration in pediatric tracheostomoplasty: A case report	Paediatr Anaesth . 2019 Nov;29(11):1151-1153.	Case report
125	Shinju Obara, Koh Kakinouchi, Jun Honda, et al.	手術部	Dexmedetomidine administration in a patient with status epilepticus under color density spectral array monitoring	JA Clin Rep. 2019 Feb 27;5(1):12.	Case report
126	Ikeda K, Ohto H, Yamada-Fujiwara M, et al.	輸血・移植免疫部	Hematopoietic cell infusion-related adverse events in pediatric/small recipients in a prospective/multicenter study.	Transfusion	Original Article
127	Kimura S, Ohkawara H, Minakawa K, et al.	血液内科	Optimal timing of apheresis for the efficient mobilization of peripheral blood progenitor cells recruited by high-dose granulocyte colony-stimulating factor in healthy donors	Transfusion and apheresis science	Original Article

128	Sano H, Mochizuki K, Kobayashi S, Ono S, Ikeda K, Ohto H, Kikuta A.	小児腫瘍内科	Two Occurrences of Leukemia Relapse Due to Mismatched HLA Loss After Haploidentical Stem Cell Transplantation From Different Family Donors With KIR Ligand Mismatch	J Pediatr Hematol Oncol	Original Article
129	Kikuchi T, Mimura K, Ashizawa M, et al.	消化管外科	Characterization of tumor-infiltrating immune cells in relation to microbiota in colorectal cancers.	Cancer Immunology, Immunotherapy	Original Article
130	Kikuchi T, Mimura K, Okayama H, et al.	消化管外科	A subset of patients with MSS/MSI-low-colorectal cancer showed increased CD8(+) TILs together with up-regulated IFN- γ .	Oncology Letters	Original Article
131	Nakayama Y, Mimura K, Tamaki T, et al.	消化管外科	Phospho-STAT1 expression as a potential biomarker for anti-PD-1/anti-PD-L1 immunotherapy for breast cancer.	International Journal of Oncology	Original Article
132	Ashizawa M, Okayama H, Ishigame T, et al.	消化管外科	microRNA-148a-3p regulates immunosuppression in DNA mismatch repair-deficient colorectal cancer by targeting PD-L1	Molecular Cancer Research	Original Article
133	Takuto Hikichi, Minami Hashimoto, Jun Nakamura	内視鏡診療部	Esophageal localized muscular defect detected immediately after ESD	Dig Endosc, 32; e126-127, 2020	Others
134	Takuto Hikichi, Jun Nakamura, Minami Hashimoto	内視鏡診療部	Circumferential esophageal carcinoma with a localized muscle layer defect that caused perforation during endoscopic submucosal dissection	Dig Endosc, 31; e113-e114, 2019	Others
135	Ko Watanabe, Takuto Hikichi, Jun Nakamura, et al.	内視鏡診療部	Clinical outcomes and adverse events of endoscopic submucosal dissection for gastric tube cancer after esophagectomy	Gastroenterol Res Pract, 2019, 2836860, 8 pages, 2019	Original Article
136	Ko Watanabe, Takuto Hikichi, Jun Nakamura, et al.	内視鏡診療部	Successful endoscopic closure using polyglycolic acid sheets with fibrin glue for nonhealing duodenal ulcer with perforation after proton beam therapy of liver tumor	Case Rep Gastroenterol, 12: 679-685, 2019	Case report

計140件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hiruta R, Jinguji S, Sato T, et al.	脳神経外科	Acute paradoxical brain herniation after decompressive craniectomy for severe traumatic brain injury: a case report	Surg Neurol Int 10: 1-4, 2019	Case report
2	Murakami Y, Kobayashi T, Naruse Y, et al.	脳神経外科	Exclusive cerebellar and leptomeningeal metastasis from early gastric cancer 14 months after proximal gastrectomy: an autopsy case report	NMC Case Rep J 6: 65-70, 2019	Case report

計2件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 福島県立医科大学における人を対象とする医学系研究に関する規程 ・ 福島県立医科大学倫理委員会規程	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年24回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 公立大学法人福島県立医科大学利益相反ポリシー ・ 公立大学法人福島県立医科大学利益相反のマネジメントに関する要綱 ・ 公立大学法人福島県立医科大学利益相反のマネジメントに関する要綱運用基準	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年24回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 被験者保護について ・ 個人情報管理と資料の管理について ・ インフォームド・コンセントについて ・ 研究における試料・情報の取り扱いについて	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1 後期研修プログラムの特徴

- (1) コース制登録者は、コースディレクターの指導により専門医研修を受ける。
- (2) プログラム制では、19ある全ての基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを運用しており、希望する専門医資格が取得できるよう、基本領域の各プログラム責任者等と相談の上、最適な計画に基づき研修を受けることができる。
- (3) 当院と研修協力病院が共同で研修を行い、専門医資格取得に必要な多くの症例・症状等を経験できる。
- (4) 大学院生・大学院研究生との併願を認めており、専門医と博士号の同時取得が可能である。

2 後期研修プログラムの管理・運営組織

研修の最終責任者は、当院の病院長であり、研修修了の認定は病院長が行っている。

- (1) 病院長のもとに、後期研修管理委員会を設置し、次の事項を行うこととする。
 - ア 後期研修プログラムの全体的な管理
 - イ 後期研修者の全体的な管理
 - ウ 後期研修者の研修状況の評価
 - エ 採用時における後期研修希望者の評価
 - オ 後期研修後及び中断後の進路について、相談等の支援を行うこと
- (2) 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - ア 病院長
 - イ 副病院長（教育研修担当）
 - ウ 部長会で選任したコースディレクター 4名
 - エ 医療人育成・支援センター 臨床医学教育研修部門長
 - オ 事務局次長（業務担当）
 - カ その他病院長が必要と認める者
- (3) 委員長は必要があると認める場合、後期研修管理委員会のもとに、コースディレクター会議を招集することができる。
- (4) 委員長は、研修協力病院等との円滑な連絡調整等を行うため、研修協力病院・施設連絡会議を招集することができる。

3 研修期間

- (1) 研修期間は、卒後臨床研修修了後3～5年以内とし、協力病院での期間を含む。ただし、原則として研修期間のうち1年以上は、当院において研修する。
- (2) (1)にかかわらず、出産・留学等により、研修を中断した期間は、研修期間に含めない。

4 指導体制

後期研修者は研修期間中、後期研修管理委員会において管理され、コースディレクター・副コースディレクターの指導のもと研修を受ける。

5 後期研修の評価

各コースで定めた評価項目に基づき、コースディレクター・副コースディレクターは評価を行う。研修終了時に、この評価資料をもとに、後期研修管理委員会が最終的な評価を行い、病院長に上申する。

病院長は研修を修了したと認定された後期研修者に対して、病院長名で後期研修修了証を授与する。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	111.3 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹石 恭知	循環器内科	部長	33年	
池添 隆之	血液内科	部長	28年	
大平 弘正	消化器内科	部長	33年	
右田 清志	リウマチ・膠原病内科	部長	37年	
風間 順一郎	腎臓・高血圧内科	部長	33年	
島袋 充生	糖尿病・内分泌代謝内科	部長	33年	
金井 数明	脳神経内科	部長	21年	
柴田 陽光	呼吸器内科	部長	29年	
濱口 杉大	総合内科	部長	25年	
塩 豊	呼吸器外科	部長	26年	
河野 浩二	消化管外科	部長	33年	
丸橋 繁	肝胆膵・移植外科	部長	26年	
大竹 徹	乳腺外科	部長	30年	
田中 秀明	小児外科	部長	28年	
鈴木 眞一	甲状腺・内分泌外科	部長	37年	
横山 斉	心臓血管外科	部長	37年	
齋藤 清	脳神経外科	部長	38年	
紺野 慎一	整形外科	部長	36年	
小山 明彦	形成外科	部長	29年	
藤森 敬也	産科	部長	32年	
添田 周	婦人科	部長	22年	
細矢 光亮	小児科	部長	37年	
菊田 敦	小児腫瘍内科	部長	39年	
石龍 鉄樹	眼科	部長	36年	
山本 俊幸	皮膚科	部長	32年	
小島 祥敬	泌尿器科・副腎内分泌外科	部長	25年	
室野 重之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	部長	28年	
矢部 博興	心身医療科	部長	37年	
伊藤 浩	放射線科	部長	31年	
鈴木 義行	放射線治療科	部長	25年	
黒澤 伸	麻酔・疼痛緩和科	部長	33年	
橋本 優子	病理診断科	部長	28年	
長谷川 博	歯科口腔外科	部長	32年	
伊関 憲	救急科	部長	25年	
大井 直往	リハビリテーション科	部長	38年	
風間 順一郎	検査部	部長	33年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 鈴木 弘行
管理担当者氏名	医療情報部長 門馬 智之

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の第三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療情報部	患者毎または記録毎に分類し管理・保管している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療安全管理部	
		高度の医療の研修の実績	教育研修支援課	
		閲覧実績	病院管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携・相談室	
	規則第一条の第十一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況				

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全使用部会
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全使用部会
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全使用部会
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全使用部会
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全使用部会
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	病院管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部等
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部等
管理者が有する権限に関する状況	病院管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 鈴木 弘行	
閲覧担当者氏名	病院管理課長 木下 貴道	
閲覧の求めに応じる場所	きぼう棟3階 病院管理課	
閲覧の手続の概要		
閲覧の請求があった場合は、院内の規定に基づき諸記録の閲覧もしくは提供を行っている。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理に関する基本的考え方 2 医療安全管理委員会その他の組織に関する基本的事項 3 医療に係る安全管理のための従事者に対する研修に関する基本方針 4 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 (高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「基本的考え方」、ガイドライン等を参考に実施することを含む。) 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 委員会の管理及び運営規定の策定・改正 2 医療安全対策の承認、決定 3 重大な問題が発生した場合の原因分析、改善策の立案と実施及び職員への周知 4 医療安全に関するマニュアルの改訂 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <p>職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図るため、全職員を対象に下記の研修を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外部講師 (厚生労働省) による医薬品・医療機器等の市販後安全対策の動向に関する講話 2 医療安全、感染対策、医薬品、医療機器、災害医療に関すること (年2回) 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 当院で発生した事故を委員会に報告する。 2 当院の「医療安全管理マニュアル」に従い事例の収集・分析を行う。把握された問題点について病院組織として改善策を策定し、必要に応じ実施状況を調査する。これらの情報は院内に周知を図っている。 3 重大な事故発生の場合は、速やかに管理者へ報告する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染管理に関する基本的な考え方 2 院内感染管理のための委員会等 3 院内感染管理のための職員研修 4 感染情報等に基づく院内感染管理を目的とした改善方策 5 院内感染発生時等の対応 6 患者等に対する本指針の閲覧 7 その他 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の耐性菌検出状況及び感染症発生状況報告 ・ 毎月のICTラウンド結果報告 ・ 指定抗菌薬長期使用者報告 ・ 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動報告 ・ 各種院内感染対策マニュアル改訂案の協議・承認 ・ アウトブレイク事例・ICT介入事例報告 ・ 各種サーベイランス結果報告 ・ 職員研修実施状況報告 等 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年22回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新採用者・中途採用者・復職者研修： <ul style="list-style-type: none"> （標準予防策・感染経路別予防策・職業感染予防策等の講義及び実習） ・ 院内感染対策研修（外部講師）： <ul style="list-style-type: none"> ガイドラインに基づいた<i>Clostridioides difficile</i>感染症診療と対策のコツ ・ 医療安全・感染管理合同研修： <ul style="list-style-type: none"> 第1回：感染対策の基本を見直そう！ 第2回：COVID-19感染症の現状、感染対策について ・ リンクナーススキルアップ講座： <ul style="list-style-type: none"> 院内感染対策担当看護師会 感染リンクナースの役割 ・ 周産期におけるCOVID-19対策シミュレーション： <ul style="list-style-type: none"> 第一種感染症指定病床説明、手術室使用時の感染対策 ・ 感染管理自己学習コース： <ul style="list-style-type: none"> 標準予防策・感染経路別予防策、結核、HIV、インフルエンザ等について ・ E-learning： <ul style="list-style-type: none"> （スタンダードプリコーション・感染経路別予防策） ・ BSI防止研修 ・ 新採用看護助手研修（病院で働くために行ってほしいこと） ・ 委託職員研修（感染予防の基礎知識等） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ICTラウンドによる現場状況チェックと改善指導・介入及び結果確認 (定例：1回/週、その他耐性菌新規検出時随時ラウンド実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種感染対策マニュアルの見直し・改訂作業 ・ 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) による抗菌薬の使用状況把握と抗MRSA薬のTDM実施及びこれらに基づく抗菌薬コンサルテーションの実施 ・ BSI/UTI/VAE/耐性菌のサーベイランスによる問題抽出と分析、対策のフィードバック ・ インフルエンザ発生動向調査および院内曝露者への予防投与、ベッドコントロール、面会 	

- 制限等、アウトブレイク予防対策の実施
- ・ COVID-19対策の実施、面会制限等の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 「医薬品・医療機器等の市販後安全対策の動向」 2 注射剤によるアナフィラキシーへの対策と、未承認医薬品及び適応外使用に関する審査制度について 3 未承認医薬品及び適応外使用に関する審査制度について 	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有)・無 ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>医薬品の採用・購入、調剤室における医薬品管理、病棟・各部門への医薬品供給・管理、外来患者への医薬品使用・管理、入院患者への医薬品管理、医薬品情報の収集・管理・周知、病院各部門の薬品管理、放射性医薬品の管理、重大な有害事象の予防対応、事故発生時の対応、職員に対する教育・研修 等</p> <p>手順書に従い実施している。</p> 	
<p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： <p>アジドチミジン (HIV母子感染予防)</p> <p>131I-MIBG (悪性褐色細胞腫)</p> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>薬剤部 医薬品情報管理室が以下を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟担当薬剤師、調剤・注射担当薬剤師から医薬品の安全使用に係る情報を収集する。 ・ 緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、添付文書、インタビューフォーム等の医薬品の安全使用に関する情報の収集及び管理を行う。 ・ PMDA ((独) 医薬品医療機器総合機構) 等から収集した副作用情報等を必要に応じ、DIニュース等で院内各部門に提供している (DI : Drug Information)。 ・ 医薬品の適応外使用及び禁忌に該当する医薬品の使用については、処方医と情報共有し適切に対応する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年237回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 輸液ポンプ等の使用頻度の高い医療機器に関しては、医療安全管理合同研修会を年2回開催している。 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器（人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器等）を中心とした研修会を部署ごとで実施している。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (①・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の始業時や終業時の日常点検と定期点検 ・ 点検報告書の作成と保管 ・ 外部委託点検の実施 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の使用事例なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> PMDAやm3等の医療専門サイトを毎日確認し、重要なお知らせについては個別にメールが送られるよう登録し、情報の収集を行っている。 周知が必要な情報や院内インシデントの事例に対する対策を周知するため、「臨床工学センターからのお知らせ」を作成し院内に配布し、安全性情報の伝達を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 「福島県立医科大学附属病院医療安全管理指針」により、医療安全管理責任者が、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括するものとしている。 									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤部 医薬品情報管理室が以下を担当する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟担当薬剤師、調剤・注射担当薬剤師から医薬品の安全使用に係る情報を収集する。 ・ 緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、添付文書、インタビューフォーム等の医薬品の安全使用に関する情報の収集及び管理を行う。 ・ PMDA（独）医薬品医療機器総合機構）等から収集した副作用情報等を必要に応じ、DIニュース等で院内各部門に提供している（DI：Drug Information）。 ・ 医薬品の適応外使用及び禁忌に該当する医薬品の使用については、処方医と情報共有し適切に対応する。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ DIニュースを10回、DIニュース号外を11回発行した。 ・ 未承認医薬品、適応外医薬品の使用について医療安全ニュースで院内に周知している。 ・ 病棟担当薬剤師等からの報告は、未承認医薬品0件、適応外33件、禁忌4件であった。 ・ 担当者の指名の有無（有・無） ・ 担当者の所属・職種： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td> <td style="width: 50%;">（所属： ， 職種 ）</td> </tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td> <td>（所属： ， 職種 ）</td> </tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td> <td>（所属： ， 職種 ）</td> </tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td> <td>（所属： ， 職種 ）</td> </tr> </table> 		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無） 									

- ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

入院患者から無作為抽出による外部委託による説明書・承諾書点検を6月と12月に実施（令和元年度 800件×2=1,600件）した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

- ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療録については、「福島県立医科大学附属病院診療録管理要綱」において、医療情報部長を管理責任者とし、管理方法を定め適切な管理を行っている。

記載内容については、福島県立医科大学附属病院診療録作成指針を定め、これに沿った内容となっているかを、診療情報管理士（委託職員）が監査し、不備があった内容を各診療科に通知し、医師による修正を行っている。

また、多職種による診療録の質的監査を行い、わかりやすい診療録になっているか等の点検を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・ 所属職員：専従（9）名、専任（0）名、兼任（16）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（7）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（6）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

- ・ 活動の主な内容：

- 1 医療安全管理委員会及び同設置要綱に規定する各種委員会等の運営に関すること
- 2 医療安全管理マニュアルの改訂に関すること
- 3 インシデント情報の収集・整理に関すること
- 4 院内巡回に関すること
- 5 医療安全研修会に関すること
- 6 医療安全相談に関すること
- 7 褥瘡対策に関すること
- 8 院内死亡事例の調査に関すること
- 9 内部通報窓口に関すること
- 10 インフォームド・コンセントの適切な運用に関すること
- 11 有害事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認に関すること
- 12 前号に係る患者又はその家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導に関すること
- 13 医療安全に係る連絡調整に関すること
- 14 医療安全の確保のための対策の推進に関すること

- 15 医療安全に資する診療内容のモニタリングに関すること
- 16 医療安全に関する職員の意識の向上の状況確認に関すること
- 17 その他医療安全に必要な業務に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

該当案件については、担当部門である「高度管理医療機器・高難度新規医療技術評価室」が診療科より申請を受けることとしている。申請があった場合には、高度管理医療機器・高難度新規医療技術評価委員会を開催し、その意見を踏まえ当該医療技術の提供の適否等について決定している。

当該医療技術の提供後には、診療科に報告を求め、申請内容や委員会の意見に沿って適切に提供されているか担当部門が確認している。

平成31年4月から令和2年3月の間に3回委員会（書面審査1回含む）を開催し、新規申請案件1件の適否と承認済み案件2件の取扱いについて審議した。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（17件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

該当案件については、担当部門である「未承認医薬品評価室」が診療科より申請を受けることとしている。申請があった場合には、未承認医薬品評価委員会を開催し、その意見をもとに当該医薬品の使用の適否等について決定している。

当該医薬品の使用後には、診療科に報告を求め、申請内容や委員会の意見に沿って適切に提供されているか確認することとしている。

平成31年4月から令和2年3月の間に10回の委員会を開催、3件のメール審査を行い、計17件の

申請案件について審議した。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 336 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 53 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

毎月の死亡事例に対し医療安全管理部長・副部長の医師がカルテ・死亡診断書・サマリー等を調査する。判断に迷う場合等は医療安全管理部内で協議し、必要に応じて当該診療科・医療安全管理委員等の意見を参考にす。医療事故に該当する疑いがあると判断された場合は、当該科に医療クオリティ審議依頼書を提出させる。調査結果は、翌月の医療安全管理委員会にて報告する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名：高知大学医学部附属病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：三重大学医学部附属病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

- 1 「M&Mカンファレンスは外科系事例でのみ行われていたが昨今の内科系領域における侵襲的処置の増加も鑑み、内科系事例も同様に行われることが望まれる」との助言を受け、院内における複数科または他職種でのM&Mカンファレンスの実施状況を調査し、現状を把握することとした。また、本院においては、複数科・他職種で検討を行う医療クオリティ審議委員会も、広義のM&Mカンファレンス相当するものと考えられる。
- 2 「手術説明同意書は医療安全管理部門で確認されているが、さらなる医療安全管理部門の関与が期待される」との助言を受け、「医療安全管理部で確認後、一定期間が経過している説明文書について、数値等を最新情報に更新していただくよう依頼すると共に、説明文書の提出が少ない診療科に対して提出を依頼することとした。
- 3 「未承認新規医薬品、禁忌・適応外に該当する抗がん薬はレジメン審査委員会で審議されていたが、審議状況ならびに実施状況を医薬品安全管理責任者も把握することが望まれる」との助言を受けたことについては、未承認新規医薬品、適応外に該当する抗がん剤を使用する場合は、先に未承認医薬品評価委員会などの審査を受けており、この時点で医薬品安全管理責任者が該当薬の審査・使用状況を把握できるようになっている。なお、レジメン審査委員会への申請時に、適応外使用等の場合は未承認医薬品評価委員会など、別途安全性に関する審査を経ていることを確認するしくみをつくり、確実な審査実施と情報共有を図ることとした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「病院の患者等相談等受付要領」に従い、患者からの医療安全に関すること・医療事故に関する相談を受け付ける。また、医療連携・相談室で受けた患者からの相談に対して医療安全に関する対応が必要と判断された場合は、医療安全管理部に連絡をいただき、審議が必要な場合は医療クオリティ審議のうえ、結果を患者・家族に報告する。

相談内容と対応については、医療安全管理委員会で報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・ 外部講師（厚生労働省）による医薬品・医療機器等の市販後安全対策の動向に関する講話
- ・ 医療安全、感染対策、医薬品、医療機器、災害医療に関すること（年2回）
- ・ 「医薬品・医療機器等の市販後安全対策の動向」
- ・ 注射剤によるアナフィラキシーへの対策と、未承認医薬品及び適応外使用に関する審査制度について
- ・ 未承認医薬品及び適応外使用に関する審査制度について

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○病院管理者

研修名 2019年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）

期 間 2020年1月7日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

○医療安全管理責任者

研修名 2019年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）

期 間 2020年2月12日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

○医薬品安全管理責任者

研修名 2019年特定機能病院管理者研修（継続・1日間）

期 間 2019年10月11日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

研修名 令和元年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会

期 間 2019年8月3日

主催者 一般社団法人日本病院薬剤師会

○医療機器安全管理責任者

研修名 2019年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）

期 間 2019年10月11日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 医師免許を有している者 2 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有している者 3 組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 福島県立医科大学ホームページで公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 福島県立医科大学ホームページで公表 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
伊藤 剛	事務局長	○	役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第2号	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
竹石 恭知	医学部長		役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第3号	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
太田 操	看護学部長		役職指定 選考会議に関する細則第3条第1項第4号	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
井上 仁	福島県病院協会 会長		理事長推薦 選考会議に関する細則第3条第1項第5号	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
塩見 俊夫	福島県総務部 次長		理事長推薦 選考会議に関する細則第3条第1項第5号	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
鈴木 義行	副病院長		理事長指名 選考会議に関する細則第3条第5項	有・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他病院の経営計画、運営管理の調整・協議 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内イントラネットにて周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 (無)) ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ((有)・無) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
鈴木 弘行	○	医師	病院長
大竹 徹		医師	副病院長
鈴木 義行		医師	副病院長
佐治 重衡		医師	副病院長
風間 順一郎		医師	副病院長
渡邊 美恵子		看護師	副病院長
黒田 純子		薬剤師	薬剤部長
佐藤 淳		事務職	事務局次長 (業務)
菊地 健一		その他 (外部)	法人理事 (経営担当)

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・**無**）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
病院の経営に関すること
病院の管理運営に関すること
病院の人事に関すること
病院の予算案の作成及び執行に関すること

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
5名の副病院長が以下の各担当業務において管理者の職務を補佐する。
 - 1 総務・企画・地域連携に関すること
 - 2 業務担当の統括・安全管理・感染制御・事故防止・質管理・災害医療に関すること
 - 3 教育・研修・臨床研究・治験に関すること
 - 4 中央診療施設の機能強化・医療情報に関すること
 - 5 医療連携・患者サービス・病院機能改善に関することその他、法人理事（経営担当）を病院の管理及び運営を行うための合議体に参画させ、意見等の聴取を行っている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
院内に「運営・管理部」を設置し、院内及び外部の専門研修等に参加させ、職員の育成に努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 病院の業務状況について管理者等から外部委員へ報告し、委員が意見を述べること。 業務等についてどのように行われているのか現場確認を行うこと。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法： 病院ホームページにおいて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 武寿	福島県医師会	○	下記参照	有・(無)	1
田中 明	国立大学法人福島大学			有・(無)	2
渡辺慎太郎	弁護士			有・(無)	1
<p>委員の選定理由</p> <p>佐藤 武寿 委員：医療に係る安全管理に関する識見を有する者</p> <p>田中 明 委員：医療を受ける者、その他医療従事者以外の者</p> <p>渡辺慎太郎 委員：法律に関する識見を有する者</p>					

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
平成18年4月1日に監査室を設置するとともに、監事監査及び内部監査を実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法
法人ホームページでの掲載予定

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会において病院の管理運営状況を監督している。 月1回実施し、病院の月次決算を報告しているほか、 予算・決算、組織・人事及び医療事故等については随時報告している。 ・ 会議体の実施状況（ 年12回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>・無 ）（ 年12回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>・無 ） ・ 公表の方法 ホームページにおいて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：-			
会議体の委員名簿 -			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年4件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 ポスター掲示により周知を図っている。